



ちぎり絵を始めて17年。日本和紙 絵画展で自身初の新人賞を受賞

長谷川 三枝さん(北河原)

今月は、昨年11月に東京都美術館において開催された和紙を使用したちぎり絵の公募展「日本和紙絵画展」で、新人賞に輝いた長谷川三枝さんをご紹介します。

ちぎり絵を始めたのは今から17年前。北河原公民館の文化祭で、知人の作品を見たことがきっかけでした。「ちぎった和紙で見事に赤富士が描かれていたのですが、こんな世界があるんだと感動してしまいました。それまでは芸術に全く興味がなかったんですけどね」と照れながら話します。長谷川さんはすぐに知人に紹介してもらい、月に2回教室に通うように。ちぎり方や貼り方で作品の表情が変わるちぎり絵の奥深さに、すっかり魅了されてしまったのです。

長谷川さんは、作品に和紙本来の柔らかさや立体感などを表現できるように研さんを積んでいきました。そして、ちぎり絵を始めて6年の月日が経ったところに一人前の証である雅号を取得。日本和紙芸術協会が主催する公募展でも初



めての出展にもかかわらず入選し、ようやく自信が持てるようになりました。長谷川さんの作品は、旅行先の風景や新聞記事に掲載されている挿絵など日常の生活において感動したことをテーマにしています。今回、新人賞に輝いた作品「神秘の森」は、長野県にある戸隠神社の奥社への参道を描いたものでした。構図を決めるために図書館に足しげく通い、イメージを膨らませた上で制作に着手したそうです。その期間は約3カ月。「杉並木から日が差し込む情景を題材にしましたが、光の透明感や絵自体の力強さを表現するのに苦労しました。主人には何度も見てもらいましたよ。この賞を受賞したときは「やっと認められたんだ」という思いでした」と制作過程におけるエピソードとともに当時の心境を明かしてくれました。

4年前に師範となり、現在は市内の公民館でちぎり絵の楽しさを伝えている長谷川さん。生徒に教えることが自分の成長につながるとあって、講師としても充実した時間を過ごさせているそうです。「ちぎり絵に携わって多忙な毎日を送れることをうれしく思います。さらに上の賞を受賞できるように、一生懸命ちぎり絵を勉強していきたいです」と軽快な口調で話します。長谷川さんのちぎり絵への熱は増すばかり。今日も感性を高めながら、日課となっている畑仕事の合間に作品のテーマを探していることなのでしょう。

はじめまして

★★★ 平成27年2月生まれのおともだち ★★★



佐藤 優虎ちゃん(持田)
平成27年2月23日生まれ
父・優樹さん 母・千穂さん
「我が家の癒やしのスマイル♡」



高橋 りりなちゃん(野)
平成27年2月8日生まれ
父・直也さん 母・李奈さん
「元気に大きく育ってね♡」



奥山 颯助ちゃん(佐間)
平成27年2月17日生まれ
父・和夫さん 母・美佳さん
「我が家の暴れん坊將軍♡」



森川 夕愛ちゃん(藤原町)
平成27年2月6日生まれ
父・達弘さん 母・可奈子さん
「いっぱい一緒に笑おうね♡」



山田 隼人ちゃん(下忍)
平成27年2月19日生まれ
父・裕平さん 母・美波さん
「隼人くん大好き♡」

平成27年4月生まれのお子さんを募集します

○2月1日(月)～29日(月)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、3月2日(水)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社メンズオータニ

独自のリメイクで着物の魅力を世界に発信



Kimono Casual



「キモノカジュアル」のジーンズ

会社プロフィール

代表取締役 **大谷 文孝**

【事業内容】紳士カジュアル衣料の製造および販売
【住所】長野4-1-1

日本の伝統的な着物文化をもっと気軽に楽しんでもらおうと新たな取り組みを始めているのが、株式会社メンズオータニです。同社は、昭和29年に行田で生産した足袋などを販売する会社としてスタートしました。その後、足袋の需要低下に伴い、紳士服の生産に転換。さらに、ジャージやスエットといったカジュアルウェアの生産も手掛け、大手量販店への卸売りやインターネット販売により事業を拡大してきました。代表取締役の大谷文孝さんは「中国を中心とした海外工場で生産、直輸入することでコストを削減し、良質な商品を安く提供することができず。さらにデニム生地そっくりの柄をプリントしたスエットや裏地にフリース素材を使ったジャージなど、他社の製品にはない工夫やアレンジを加えているのも特徴です」と商品へのこだわりを語ります。

また、同社は新たなビジネスの場として海外市場に着目。外国人に日本を連想してもらえる商品を作りたいという思いから、3年前に着物を使ったブランド「キモノカジュアル」を立ち上げました。「着物の持つ質感や優雅な柄を現代の衣料と融合させたブランドです。ジーンズのポケットやアクセントに活用したり、帽子やバッグなどの小物としてリメイクすることで世界に一つしかない商品を生み出しています」と大谷さんは製品の魅力を説明してくれました。着物の魅力を生かした美しいデザインが評判を呼び、昨年7月にはフランスパリで開催された日本文化を紹介するイベント「ジャパンエキスポ」に初出展。現地メディアから取材を受けるなど、多くの来場者の関心を集めました。

大谷さんは「これからも展示会への出展やインターネット販売を通じて、世界中の人々を相手に仕事をしたいです」と意気込みを語ります。既にアメリカへの進出も決まり、手応えを感じている同社。遠い海の向こうで「キモノカジュアル」が注目を集める日が確実に近づいています。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

- | | | | |
|-----------------|-----------|---------------|------------|
| 俳句 | 荒木 藤田 明枝 | 唯仰ぎ見る大銀杏落葉かな | 棚田町 春田 枕流 |
| 冬の虹かたちになれぬまま消ゆる | 城西 鈴木 正夫 | 元旦や雀も来ぬと老の愚痴 | 財津ミチエ |
| 筆始墨たつぷりと細川紙 | 矢場 鈴木かづの | 自家園の薬物根菜鍋料理 | 須加 天沼 広吉 |
| 年の瀬や鮒背漢の魚市場 | 南河原 今村 文女 | 廃屋を染める一木冬紅葉 | 荒木 高澤よね子 |
| 筆はじめ老いの生き甲斐一行詩 | 持田 伊藤 洋子 | 水鳥の声のあつめし光かな | 谷郷 大谷 峯生 |
| 海鳴りの塩谷岬の紅葉散る | 長野 野中せき子 | 長瀨の緩き流れの炬燵舟 | 門井町 嶋田 茂 |
| ズボン穿く足のもつれる寒さかな | 佐間 須永 節子 | 母の忌や寒夕焼に急かさるる | 富士見町 鈴木スイ子 |
| 軒先を電話が歩く師走かな | 下中条 梶原 銃司 | 大利根や戦なき世の初日の出 | 城南 橋本千枝子 |
| 初日浴び都へ奔る利根の水 | 須加 須加かづ江 | 印刷に一筆添えて年賀状 | 向町 小沼 重蔵 |
| それぞれの具材仲良くおでん鍋 | 荒木 森田 静 | 通学の子等の手袋彩放つ | 富士見町 森 節子 |
| 藪椿胸にたたみし一事あり | | | (三沢 一水 監修) |

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。